施策評価シート （評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	4 子どもの居場所づくり	② 施策番号	7704
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育委員会	文化振興課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	市内の小中学生
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	子どもの健全育成のため、誰もが自由に立ち寄ることができる、本を介した居場所の提供を行う。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	学校、行政、ボランティア等が連携して子どもたちを健全に育成していくことが求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 参加者数(利用者) 計算式:	人	安全・安心な居場所として利用していることがわかるため、参加者数により示す。
② 計算式:		
③ 計算式:		

指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 参加者数(利用者)	人	目標値		500	500	500	夏休みのプール事業の代替え事業としてスタートしたものであるため、令和元年からの実績となる。
		実績値		303	—	—	
		達成率		60.6%			
②		目標値					
		実績値					
		達成率					
③		目標値					
		実績値					
		達成率					

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価		今後の方向性
1	子どもの居場所づくり事業	参加者数	人	—	303	—	—	1,815	1,815	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						0	1,815	1,815			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	読書推進、子どもの居場所づくりなど、こどもの健全育成を推進する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	令和元年度からの実施であるが、夏休みという短期間、限定的なものであるが、参加者数は増大である。R2年度については、夏休みの縮小が図れているが、より充実した居場所を提供したい。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	青少年センター、埋蔵文化センター、各小学校など様々な場所で居場所づくりを行うことができており、適正。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	青少年センターや埋蔵文化センター、各小学校などと連携を図っている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	夏休みのプール事業の代替事業として実施しているものであり、持続可能な事業として、子どもたちに安全に安心して過ごせる場所の提供は必要不可欠なものであり、さらなる重点化が必要。

4. 一次評価(所管課評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
一次評価	A	行政のみで居場所を維持するのは人力的にもコスト的にも難しく、いかに市民ボランティア等と連携、読み聞かせの講座等も視野に入れて、様々な視点からの事業展開に取り組む必要がある。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	図書館において、利用する子どもたちの意見を聞き、居場所の内容を充実させる。この事業をきっかけとして、子どもの読書活動の推進につなげる。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	子どもの居場所を持続可能なものとし、子どもたちのニーズに応じた居場所づくりができるよう事業の拡大を行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	小学校、各関係施設等との連携を図り、居場所の重要な担い手となるように努める。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
二次評価	B	図書資料の活用による子どもの居場所づくりへの取り組みが適切に行われている。 子どもの読書へのきっかけづくりによる読書活動の推進を通じた居場所の提供を引き続き進められたい。	